

MATSUDOING2050

まちづくりデザインマップ004案

横張真(東京大学教授)
宮城俊作(東京大学教授)
秋田典子(千葉大学准教授)
藤村龍至(東京藝術大学准教授)
2020.7.3

2020年4月22日に「MATSUDOING2050」のワークショップに関わってきた専門家(横張・宮城・秋田・藤村の4名)が、先立ってご提示した「まちづくりデザインマップ003案」に対しての参加者の皆さんからのコメント(別紙「意見募集②まとめ」)に全て目を通し読み合わせを行なった上で、改めてオンライン上で意見交換し、「まちづくりデザインマップ004案」を作成しました。

003案からの変更点

専門家からの「2つの提案」

(1)全体の捉え方

「(仮称)MATSUDOING2050 時空間ゾーニング」

→ 「MATSUDOING2050 3つのゾーン」

と更新させていただきました

(2)戦略的拠点

「(仮称)MATSUDOING2050 VOID」

→ 「MATSUDOING2050 3つの場」

と更新させていただきました

※補足「まちづくりデザインマップ」について

各班でそれぞれの成果があり、その中でも意見の多かった内容を抜粋し、専門家の示唆を踏まえ作成する「シャレット」を踏まえたマップのことです。

First Stageでの議論を踏まえ、まちづくりデザインマップ001案に統合し、Second Stageでは、公共空間・都市防災・民間事業といった視点で参加者が議論し、その成果でデザインマップを更新する試みを行いました。

今回作成した「まちづくりデザインマップ004案」はあくまで現段階での案であり、今後もワークショップを含め、様々な市民参加プロジェクトにおいてMATSUDOING第1弾の成果として共有し、検討を進めていきます。

MATSUDOING2050 まちづくりデザインマップ004案 「2つの提案」

(1)全体の捉え方＝「MATSUDOING2050 3つのゾーン」の設定

003案では長い時間のなかでまちの動きを捉える進行形(MATSUDOING)の戦略が必要であると考
え、松戸駅周辺地区全体の時空間を3つのスケール(大・中・小)に分けて考えていくことをご提案
しました。その表現について、わかりにくいとのご指摘があったことから、以下のように「3つの
ゾーン」として整理させて頂きました。

1)「新拠点ゾーン」＝官舎跡地・中央公園・旧法務局

まち全体に波及していくような新しい人のつながりや動きが生まれる「MATSUDOINGが生まれ
る」ゾーン

2)「松戸駅前ゾーン」＝松戸駅周辺の商業ビルが密集するゾーン

既存のまちに新しい人のつながりや動きが影響を与える「MATSUDOINGが育てる」ゾーン

3)「大きな松戸ゾーン」＝松戸駅から江戸川、矢切、戸定が丘、千葉大学園芸学部まで

小さな場のネットワークに新しい人のつながりや動きがつながる「MATSUDOINGが広がる」ゾ
ーン

(2)戦略的拠点＝「MATSUDOING2050 3つの場」の設定

003案では進行形(MATSUDOING)の戦略が特に表現される場所として新拠点ゾーンを位置付け直
すことをご提案しましたが、「VOID」という言葉が「変化を許容する場」という意味と「建物が
立っていない場所」という意味が重なっていてわかりにくいとのご指摘があり、以下のように「3
つの場」として整理させて頂きました。

1)北側のゾーン：「試みの場」

新しいライフスタイルや人々が活動を持ち込んで育てるような働き方などを支える場

2)中央のゾーン：「オープンな場」

南北をつなぐオープンスペースであり多様な過ごし方が実践できる場

3)南側のゾーン：「支える場」

災害時に防災拠点としてのHQ機能など人々の生存を支える場

今後は、今回のCOVID-19の感染拡大による緊急事態をひとつの契機として捉え、これまでイメ
ジされてきた公共施設、商業施設というような従来型の施設像ではなく、新しいライフスタイル
や人々が活動を持ち込んで育てるような働き方などを支える場（例えば、テレワークを前提とし
た住宅や互いに経験をシェアできるなど）を意思ある市民や民間デベロッパーを巻き込んで討議
しながら、これまでになかった土地や空間の実験的な使い方を考えていくべきだと考えます。

なお、今回のワークショップでは従来市役所が持っていた機能のうち「防災機能」の必要性につ
いて参加者から意見があがりました。そのほかの市民サービス窓口機能や執務機能などについて
は議論してこなかったため、例えば既存の拠点の組み合わせや他の施設への分散、オンラインの
活用等を含めて今後の市役所のあり方を継続して議論していくべきだと考えます。

以上